長洲町立長洲小学校　校長便り　№56

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和4年12月9日(金)

PTA主催「目から鱗が落ちる」戸田俊文先生講演会

持久走大会の後に、PTA主催教育講演会が実施されます。講師は真和中学・高等学校の専任講師戸田俊文先生です。戸田先生は荒尾玉名の先輩の校長先生で、情報教育にとてもお詳しく、熊本県教育政策課や県立教育センターで指導を行われていた先生です。今でも真和中学・高等学校に籍を置きながら、県内各地の学校に招かれ、講演や研修をされています。

今回は「ネット社会をかしこく生きるために（仮題）」と題して講演をして頂きます。子供達にとってスマホ等の機器の扱いについてはトラブルに巻き込まれる事案もあり、憂慮すべき実態があります。これからは「使わせない」ではなく、正しく使わせるために大人がサポートしつつ子供達個人での管理ができるようにしなければなりません。戸田先生は長洲小学校の実態に関するお話もして頂けるようなので、保護者の皆様には是非ともお聞き頂きたいと思います。

講師の先生は戸田俊文さんで、私も戸田先生のお話を何度かお聞きし、子供だけでなく大人に対しても解りやすく解説してくれます。正しく理解し、適切な使用によりリスクを回避し、ツールとして便利に使っていく方法を教えて頂きます。

保護者の皆様、当日は是非ともご参加頂き、学びをご家庭で共有して頂きたいです。

【雑感】歳のせいか…？

私は休日も結構仕事（特にみんなの居場所の執筆？）をするんですが、折角の休みですから遊びもします。プラモデル作りだったり、読書だったり、DVD鑑賞だったり…です。先日は録りためていたテレビ番組を早送り再生で見ました。

さて、「水戸黄門」を見る機会がありました。コンセプトは「勧善懲悪」なのでしょう、非常に分かりやすい内容です。水戸のご老公の「助さん角さん、懲らしめてやりなさい！」に豪徳されるように、悪事を働く者を懲らしめます。水戸黄門を見ていて、ストーリーを想像しながら最後は「この紋所が目に入らぬか～！」となると、スカッとするのですが、最近予期せぬことが起こります。感動して泣いてしまうことがあるのです。最近、感動的な場面で涙が出るんですよ。歳ですかねぇ。

「水戸黄門」のストーリーは、何となく最近の家族像や子供像、親像を揶揄している様な気がします。例えば、自分の子が悪さした、その時親は子供の首根っこ捕まえて先方に謝りに行くのです。「この度は、息子が○○ちゃんに嫌な思いをさせまして、本当に申し訳ございません。」それに対して嫌な思いをした子供の親は「こちらこそです、これからはお友達として仲良くしてくださいね。」となります。自分ファーストの今の時代、そういう考え方をしてしまう人には、少し考えて欲しいです。

最近どうでしょうね？　互いの思いに心を寄せる場面はあるのでしょうか？　時代が変化しても「不易」は変わりません。加速度的に変化したとしても、人の心は相手を思いやることができます。「思いやり」等の、人の心の不易な部分はいつの時代でも変わらないものです。私は教師として「不易」「流行」どちらも敏感でありたいし、徹底的に伝えていきたいと考えています。

シリーズ「自分を誇る」#56

前回は交通事故の話でしたね。今回はケガです。何故か病気やケガの話は反響が大きく、よく保護者の皆様から話しかけられます。

平成13年度末を迎え、先生方と一緒にサッカーをしていた時のことです。まだ30代前半だった私は、気持ちも荒っぽかったのでしょう、サッカーのプレイでもよく人と当たってこけていました。サッカーが終わって、手を洗いに行った時、左手の薬指の異常に気が付きました。手をすり合わせている時に左手の指が右手に引っかかるような感覚でした。確認するために手を握ったり開いたりしてみると…？開いているつもりなんですが、何故か左手中指の第二関節が直角に曲がっています。私が意識して曲げている訳ではありません。（第二関節ならともかく、第一関節だけを意識的に直角に曲げるのは大変です。）痛みも何もないのでちょっと怖くなってきました。「何だこれは…!?」恐る恐る曲がっていた部分を右手で伸ばしてみました。するとどうでしょう。私の意に反して、また直角に曲がります。まるでバネの様に元に戻ります。（元にというのは直角にということです。）この状態で「前にならえ！」をすると、他の指はきちんと伸びて「前にならえ！」をしているのですが、中指だけが右側を向いてしまって「右にならえ！」をしているのです。それを見ていた職員は「なんそれ、どぎゃんしたと？」と笑いながら見ています。私はどんどん怖くなって、保健室の先生に相談すると「すぐに整形外科に行きなっせ！」私の気持ちはどんどん不安になっていきました。あまり触るといけないのかもしれないと思い、保健室で頂いた保冷剤で冷やしながら移動しました。痛みは全く無かったので冷やしてもただ冷たいだけで、それが逆に不安をあおりました。

整形外科に到着。事情を説明して早く診てもらおうとしましたが、看護師さんは順番通りに対応されました。この症状はよくあることだったのでしょう、あまり看護師さんも驚かれませんでした。まず、レントゲンを撮りました。その写真ができたところで診察室へ。先生は二コニコ笑顔です。「あら？、センセ～やっちゃったね～。これね、指の上に通っている筋があるんだけど、その筋が切れた状態。つっかえ棒が無くなった状態だから、反対側の筋の力が勝って、今みたいに曲がってるの。その筋は早く治したければ手術しかないよ。（え～っと思う私）でもね、これで手術する人って殆どいないよ。（じゃ、治療は…？と呟く私）治療は固定するだけ。確実に元に戻すためには3ケ月固定する。そしてレントゲンとって固定を外すかどうか判断するの。」そうかそうかと何となく納得しながら、処置を受けながら先生の話を聞いているとこんな言葉を聞きました。「スワンネック変形」スワン、すなわち白鳥ですね。白鳥の首の形に似た姿形ということですね。「言い得て妙」…、なんて感心している場合じゃありません。私の左手中指は、指の腹の方から添え木をあてられ、逆方向に指が反る様な形で固定されました。これから3ケ月、風呂に入る時は左手にビニール袋、風呂から上がると指を固定した状態でアルコール綿で消毒を行いました。こうして3カ月が経過し、固定を外すOKが出ました。ホッとしました、あの時は。

（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）